

鳥取県病原微生物検出情報

(令和2年1月検出分; 検体採取 令和元年12月、令和2年1月)

令和2年2月21日

鳥取県衛生環境研究所

1 インフルエンザ

臨床診断名がインフルエンザの検体5件(検体採取12月中旬~1月中旬)について、検査を行ったところ、4件からインフルエンザA2009型が検出されました。残り1件からは、インフルエンザウイルスは検出されませんでした。(詳細は表1のとおり)

表1 今シーズン鳥取県インフルエンザ検出情報

検体採取時期		検体採取場所	検出数	A型別、B系統別				備考
年	月日			A2009型	AH3型	Bvictoria	B山形	
2019	9月6日	西部	1	1	0	0	0	
	9月18日	西部	1	1	0	0	0	
	11月25日	西部	1	1	0	0	0	
	12月2日	中部	1	1	0	0	0	
	12月10日	西部	1	1	0	0	0	
	12月13日	東部	1	1	0	0	0	
	12月13日	西部	1	1	0	0	0	
	12月16日	中部	1	1	0	0	0	
	12月16日	西部	1	1	0	0	0	
2020	12月19日	西部	1	1	0	0	0	
	1月6日	西部	1	1	0	0	0	
	1月10日	中部	1	1	0	0	0	
病原体定点PCR検査合計 (2019/9/2 - 現在)			13	13	0	0	0	

全国のインフルエンザ患者から分離・検出されたウイルスについては、国立感染症研究所の病原微生物検出情報(2月14日作成)によると、今シーズンは、A2009型が最も多く報告されています。(図1)

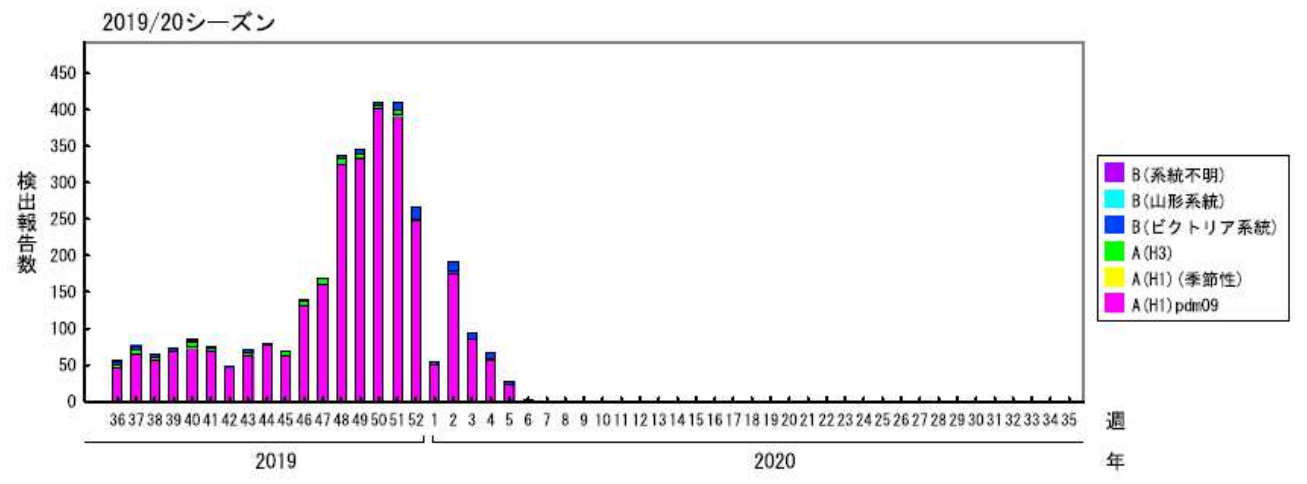


図1 週別インフルエンザウイルス分離・検出報告数

2 咽頭結膜熱

臨床診断名が咽頭結膜熱の検体 4 件（検体採取 12 月上旬、中旬）について検査を実施したところ、3 件からアデノウイルスが検出され、残り 1 件からはアデノウイルスは検出されませんでした。検出された 3 件のうち、2 件（検体番号 200010、200011）は 3 型で、残り 1 件（検体番号 200014）は型別不能でした。

国立感染症研究所の病原微生物検出情報（2 月 14 日作成）によると、全国の咽頭結膜熱患者から分離・検出されたウイルスについて、アデノウイルス 3 型は 2016 年から 2019 年まで最も多く報告されています。（図 2）

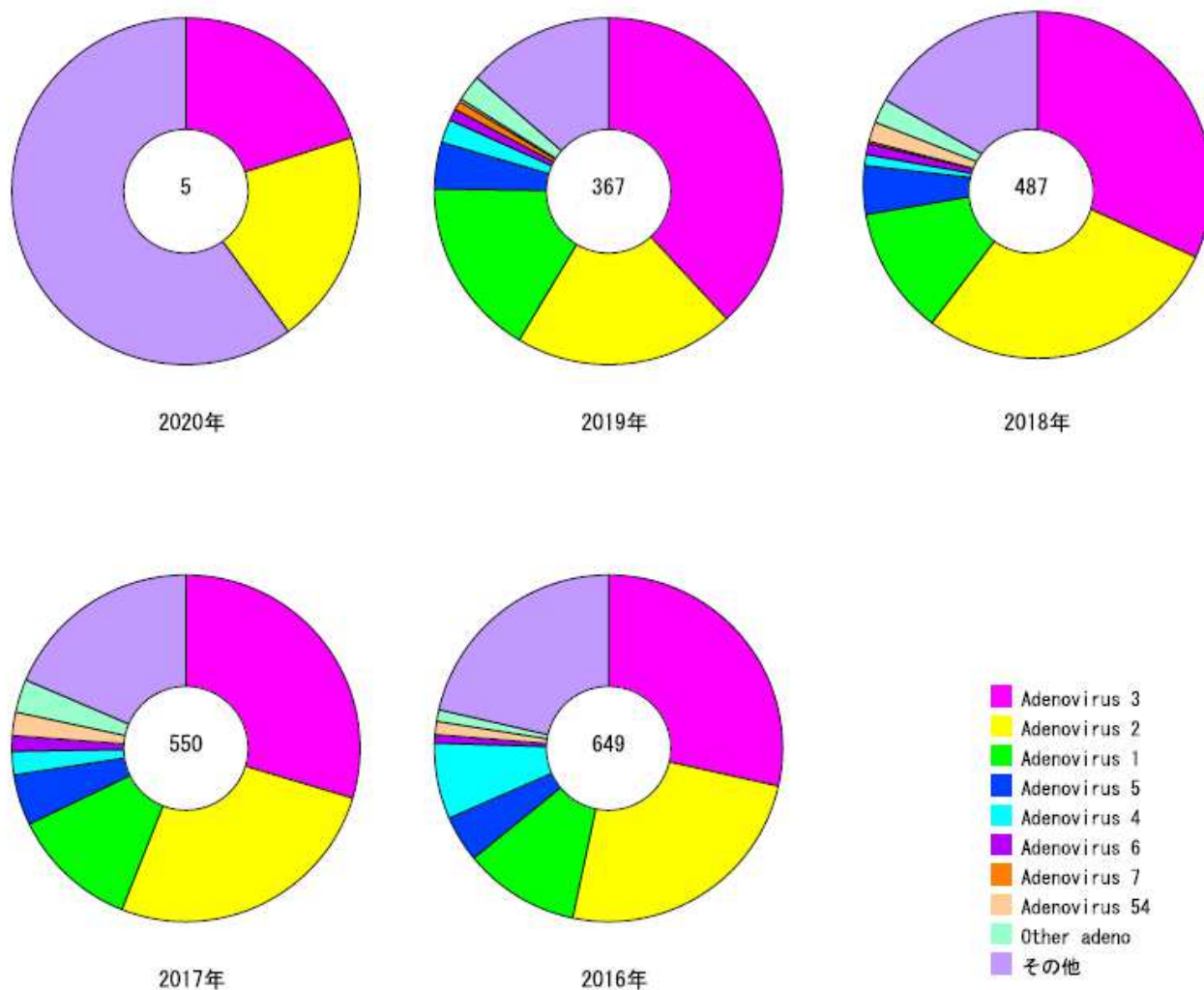


図 2 咽頭結膜熱患者から分離・検出されたウイルス（2016 年～2020 年）

*円グラフの中の数字は各年ごとの分離・検出報告の総数（2020 年は 2 月 14 日までに報告された数）

3 流行性角結膜炎

臨床診断名が流行性角結膜炎の検体2件（検体採取12月上旬）について検査を実施したところ、すべてアデノウイルスが検出されました。そのうち、1件（検体番号200001）は54型で、残り1件（検体番号200002）は3型でした。

国立感染症研究所の病原微生物検出情報（2月14日作成）によると、全国の流行性角結膜炎患者から分離・検出されたウイルスについて、2016年から2019年まで、アデノウイルス54型は最も多く、アデノウイルス3型はその次に報告されています。（図3）

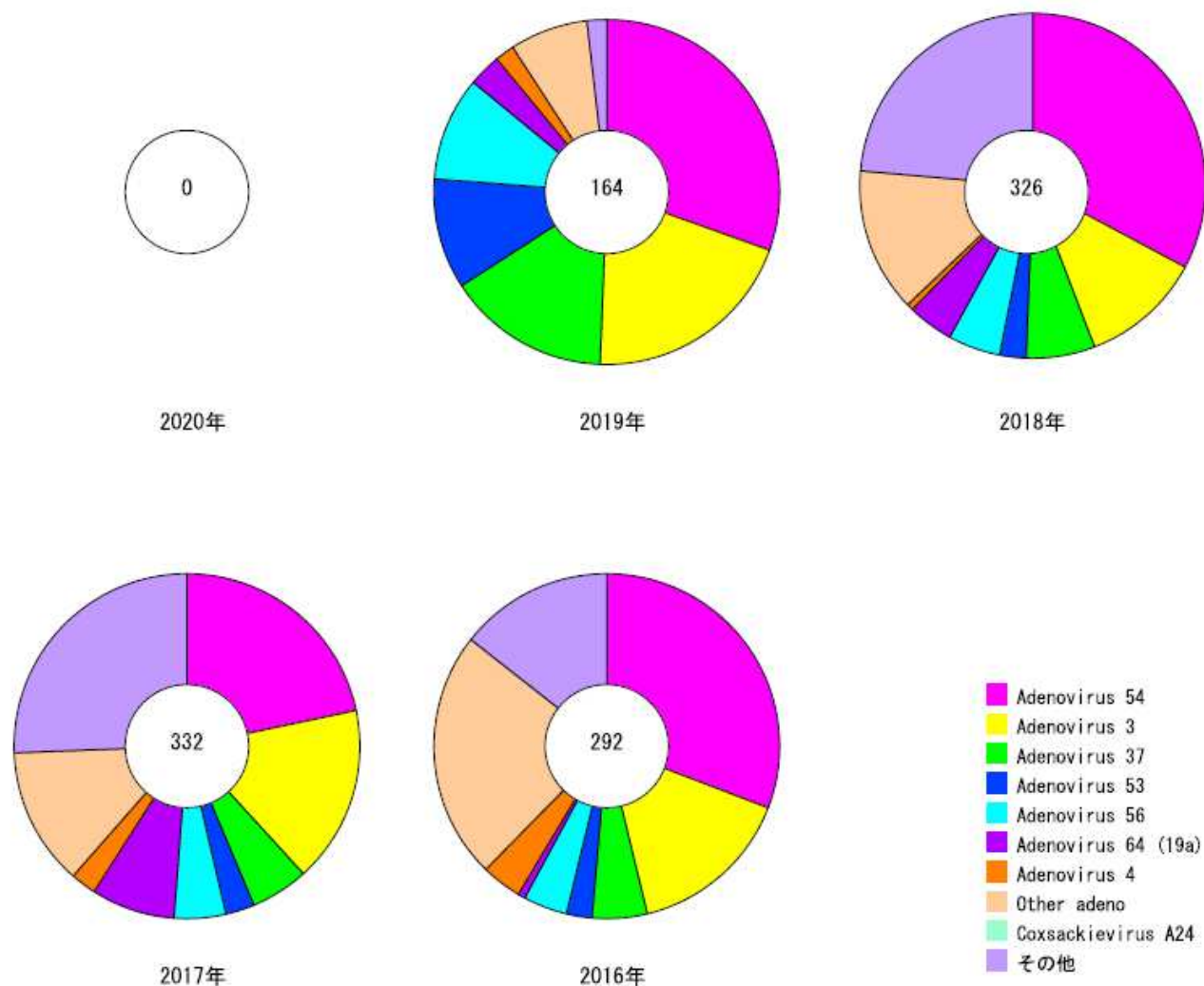


図3 流行性角結膜炎患者から分離・検出されたウイルス（2016年～2020年）

*円グラフの中の数字は各年ごとの分離・検出報告の総数（2020年は2月14日までに報告された数）

4 手足口病

臨床診断名が手足口病の検体 1 件（検体採取 12 月上旬（検体番号 2000013）について検査を実施したところ、エンテロウイルスが検出されました。検出されたエンテロウイルスについては、型別不能でした。

5 感染性胃腸炎

臨床診断名が感染性胃腸炎の検体 11 件について、検査を行いました。検出されたウイルスは、サポウイルス 2 件とアデノウイルス 40/41 型 1 件でした。（詳細は表 2 のとおり）

表 2 検査状況（感染性胃腸炎）

検体番号	検体採取時期	ノロウイルス	サポウイルス	A 群ロタウイルス	アデノウイルス 40/41	アストロウイルス	アイチウイルス
200005	12 月中旬	—	検出	/	/	/	/
200006	12 月中旬	—	—	—	—	—	—
200007	12 月中旬	—	検出	/	/	/	/
200008	12 月中旬	—	—	—	—	—	—
200009	12 月中旬	—	—	—	検出	—	—
200012	12 月上旬	—	検出	/	/	/	/
検出計		0 件	3 件	0 件	1 件	0 件	0 件

(—): 未検出

6 カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症

発生届のあった検体 2 件について検査を実施したところ、全て 4 つの遺伝子型（IMP 型、NDM 型、KPC 型、OXA-48 型）ではありませんでした。（詳細は表 3 のとおり）

表 3 検査状況（カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症）

検体情報		検体受付日	総合判定			
発生届年月日	菌種		IMP 型	NDM 型	KPC 型	OXA-48 型
R2.1.6	<i>Enterobacter cloacae</i> (喀痰より分離)	R2.1.8	—	—	—	—
R2.1.6	<i>Enterobacter aerogenes</i> (喀痰より分離)	R2.1.8	—	—	—	—

(—): 未検出